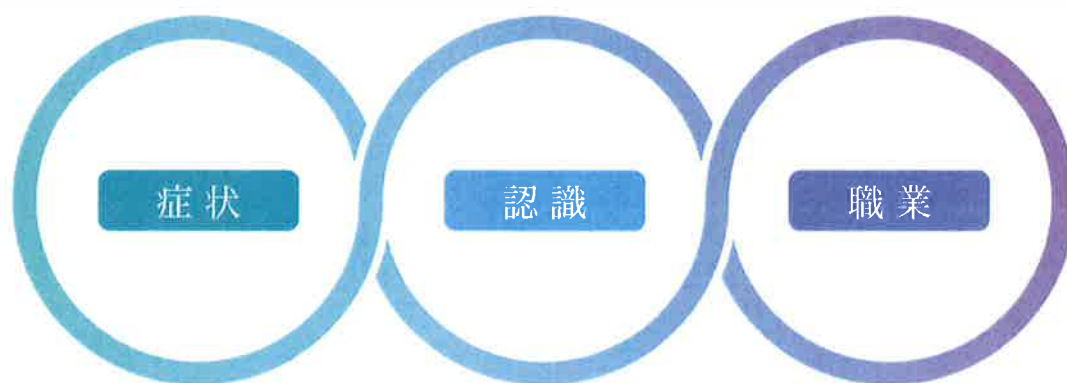


東海事業部愛知第一エリア 自立支援ケア第5回事例報告会

Gakken Group

MCS

認知症を取り巻く、
あらゆる社会環境を変革する



予防・改善・緩和の分野において、
顧客本位のサービスを提供する

認知症に対する認識を変え、
新たな社会受容をつくる

介護職の存在価値を高め、
生涯働き続けられる専門職にする

歩行器を使用する事で 歩行姿勢が改善された事例

愛の家GH 中川新家 虹ユニット

MCS Medical Care Service

1. 事例紹介

1) 事例対象者の基本情報

利用者名 (M様)			
性別	男性	年齢	86歳
既往歴・現病	アルツハイマー型認知症・正常圧水頭症・急性硬膜下血腫		
服薬状況	下剤-パンテチン散20% 朝・昼・夕 下剤-アミティーザカプセル24 μ g 朝 下剤-マグミット錠330mg 朝・昼・夕 認知症治療薬-抑肝散エキス顆粒 朝・昼・夕 抗ヒスタミン薬-ロラタジンOD錠10mg 夜 前立腺肥大の薬-シロドシンOD錠4mg 朝・夕 低血圧治療剤-メトリジン錠2mg 朝・夕		
食事形態	常食	排泄形態 (場所も)	頻尿・失禁あり (トイレ)
座位姿勢	安定	歩行状況 (器具も)	歩行不安定 (杖・付き添い)

MCS Medical Care Service

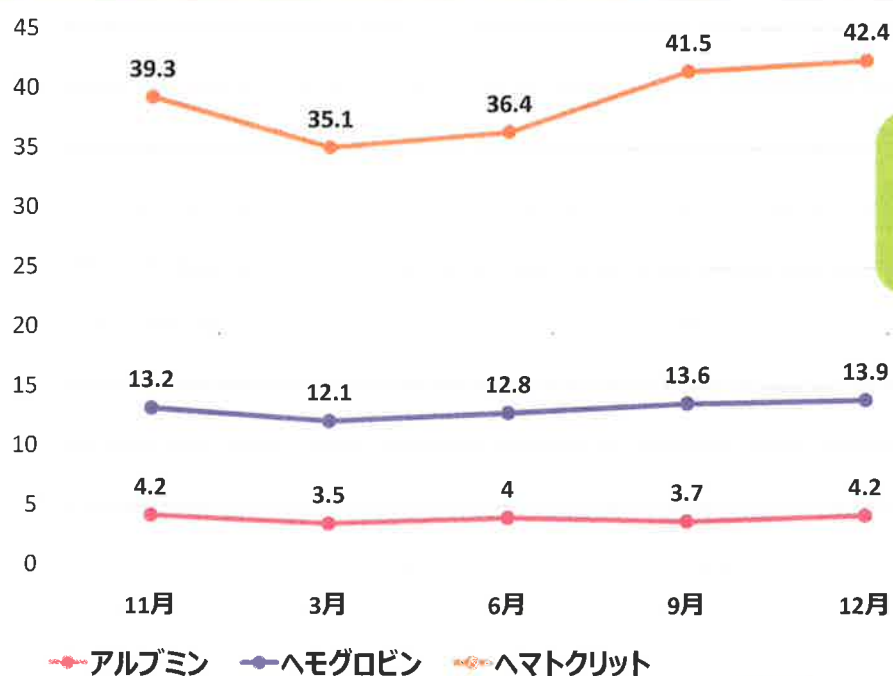
1. 事例紹介 2)生活歴・入居の経緯

出身地	三重県出身。3人兄弟の二男として生まれる。
職歴	名古屋市に引っ越してからは長年、建築会社に勤め、大型重機のオペレーターをしていた
家族等	妻、長女、長男
生活歴	他人との交流を好まず休日も家で過ごす事が多かった。奥様が脳梗塞発症後に特養に入居されてからは毎日、面会に行かれていた
入居経緯	H28年9月に自宅2階で倒れ、動けなくなり救急搬送。正常圧水頭症の診断にて入院。同居の長男は車椅子で生活されている為、自宅復帰は難しく、12月14日に入居となる。

1. 事例紹介 3)グループホームでの生活で支障をきたしていること

生活の支障①	易怒性	人に干渉されるのが嫌いで歩行の付き添いをする際に強い口調で怒ってしまわれる
生活の支障②	気難しい	運動や散歩、レクに殆ど参加されない。声掛けに怒られる。人に言われてやりたくない
生活の支障③	歩行不安定	退院時より下肢筋力の低下が著しく、膝を曲げて歩行される
生活の支障④	尿失禁	以前より尿漏れはあったが、退院時より毎回尿失禁がある為、介入するが怒られる
生活の支障⑤	夜間頻尿	日中、居室で過ごされ寝てしまわれる為、昼夜逆転傾向にあり、夜間にお茶を500cc～1000cc飲まれる
生活の支障⑥	介護抵抗	歩行の付き添いやトイレ介助に怒ってしまわれる
生活の支障⑦	危険認識が出来ない	歩行補助具が無くても自分は大丈夫と思っている
生活の支障⑧		

2. 血液データ



MCS Medical Care Service

2. 取り組んだ内容

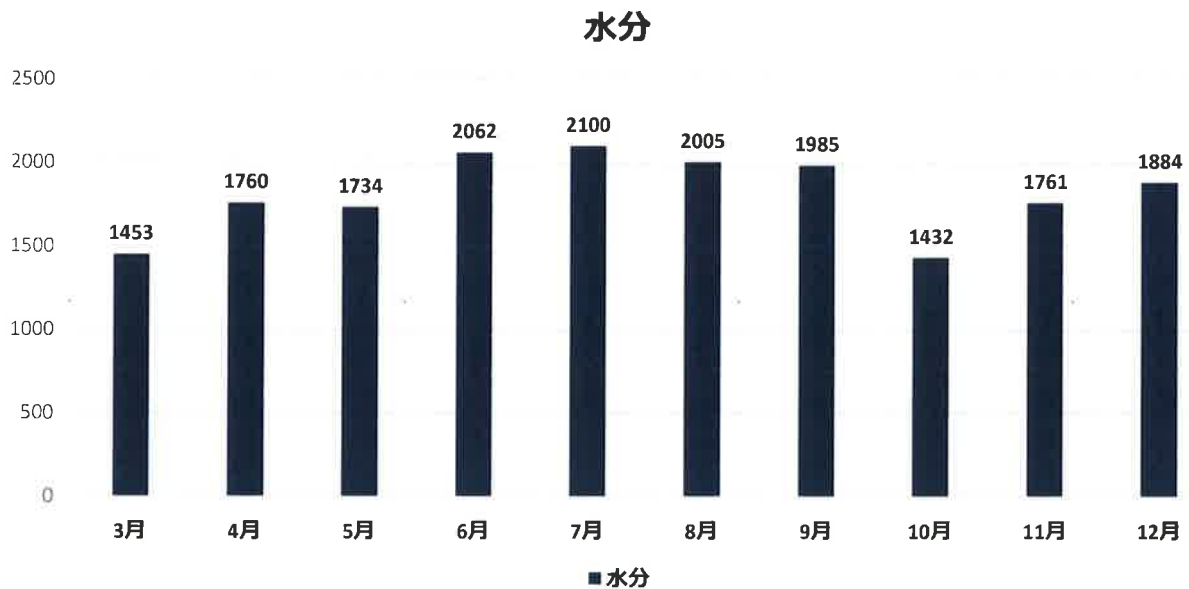
水分量を増やす

- 一日の水分2000ccを目標
- 午前中の水分摂取量を増やす為、起床時に鉄ジュース200ccを提供
- 運動後はイオンドリンク200ccを提供
- お茶以外にコーヒー、紅茶、イオンドリンクなど提供する
- 一日3回、食前薬と食後薬がある為、白湯600ccは確保

MCS Medical Care Service

3. 結果

水分量の推移



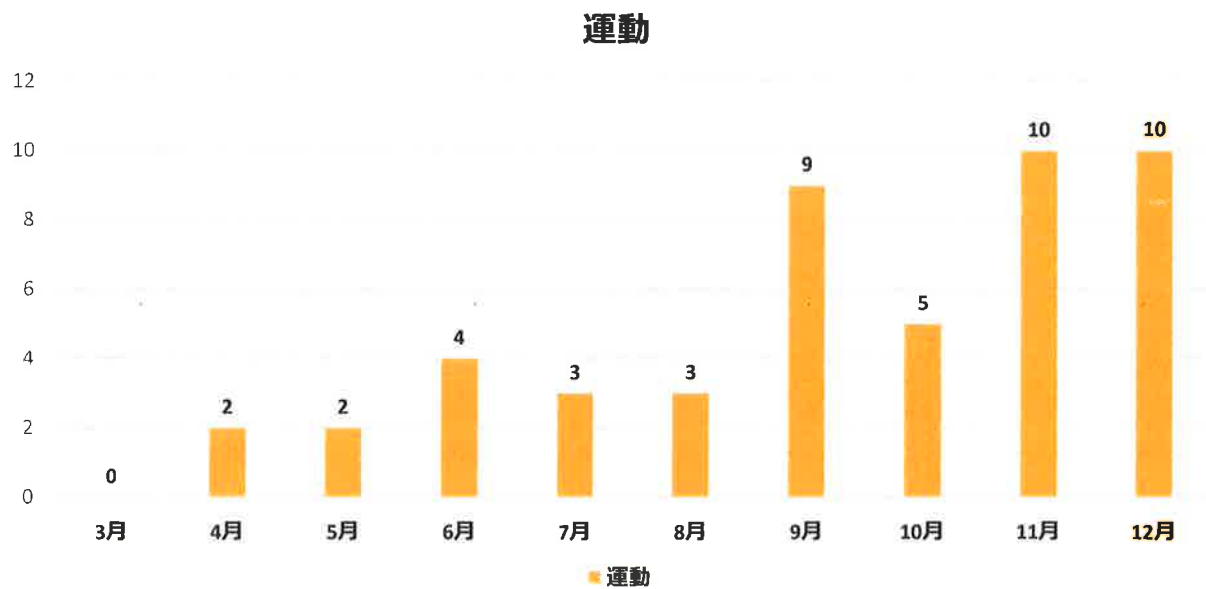
2. 取り組んだ内容

活動量を増やす

- ・運動にお誘いする
- ・廊下で手すりを使って両下肢の屈伸、かかと上げの運動
- ・その他、レクや散歩にお誘いする
- ・スタッフと行う運動に加え運動の機会を増やすため、拒否されることがない訪問リハビリの利用回数を増やす（週4回）
- ・10月末より杖から歩行器に変更

3. 結果

運動回数の推移



3. 結果

運動の状況（動画データ）



3. 結果

歩行の状況（動画データ）



MCS Medical Care Service

3. 結果

姿勢の変化



MCS Medical Care Service

3. 結果

どんな状態から、どう改善できたか

	どんな状態が	どう改善した
①	立位や歩行時に膝を曲げて歩行される	杖から歩行器に変更したことで膝が伸び歩行姿勢が多少改善された
②	運動やレクへの参加を断られる	運動をされる回数が以前に比べ、多少増えた。また、嚥下体操は参加される頻度が増えた為、上肢の運動量も増えている
③	トイレ使用時に介入すると怒られる	怒らずにパッドの確認をさせて下さるようになった
④		
⑤		

4. 課題・今後の方向性

- ・ 運動をして頂けない事が多く、運動されても少しの運動で「疲れた」と言われ、運動する機会が少ない為、下肢筋力の低下が顕著で歩行不安定。転倒リスクがある
- ・ 昼夜逆転傾向。夜間にお茶を飲まれる時もあり、夜間頻尿。歩行器を使用せずトイレに行かれる為、歩行器使用の声掛けに強い口調で怒ってしまわれる
- ・ 自分は大丈夫という思いが強く、危険認識が出来ない為、歩行器を使用せず独歩で移動しようとされることが常にある

午前の水分摂取量と活動の見直しを行いながら、下肢筋力の向上、夜間の睡眠確保を目指していきます。

認知症を
超える。

Gakken Group
MCS Medical Care Service